

Title	後藤末雄略年譜；後藤末雄著作年表
Sub Title	Bibliography and personal history of the late professor Sueo Goto
Author	松原, 秀一 (Matsubara, Hideichi)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1968
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.25, (1968. 3) ,p.459- 460
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	英語英文学・独語独文学特集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00250001-0459

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

後藤末雄略年譜

- 明治19年10月25日 東京、本所に生れる。
- 明治43年 7月 第一高等学校卒業。9月、東京帝国大学文学部に入学。
谷崎潤一郎、和辻哲郎等と共に第二次『新思潮』を發刊。創作を志す。
- 大正2年 7月 東京帝国大学文学部仏文科卒業。
- 大正3年 8月 陸軍中央幼年学校教官となる。
- 大正8年 9月 慶応義塾大学文学部兼予科教員となり、フランス語を担当する。
- 昭和6年 3月 *Introduction des idées chinoises en France au XVII^e et au XVIII^e siècle* により文学博士の学位を受ける。
- 昭和6年 4月 フランス政府の招聘により妻子と共に渡仏。翌7年、帰国。
- 昭和16年 5月 上海自然科学研究所の招聘により中国を旅行。
- 昭和17年 2月 慶応義塾外国語学校講師を兼ねる。
- 昭和18年 1月 慶応義塾大学語学研究所員を兼ねる。
- 昭和26年 7月 慶応義塾大学教授（語学研究所）となる。その他、立教大学、日本大学、天理大学等の講師を兼ねる。
- 昭和37年 3月 慶応義塾大学教授を辞任する。
- 昭和37年 4月 慶応義塾大学大学院文学研究科講師となる。また、文京女子短期大学で教鞭をとる。
- 昭和42年 4月 慶応義塾大学講師を辞任する。
- 昭和42年11月10日 心臓発作のため死去。享年82才。

後藤末雄著作年表

- 大正3年 『モリエール物語』（実業之日本社・世界名著物語 VI）
『近代仏蘭西文学研究』（石川文栄堂）
P・ロチ『郷愁』（訳・新潮社・近代名著文庫 VII）
- 大正6年 J・ペディエ『恋と死——トリスタンとイゾルデ』（訳・新潮社）

- R・ロラン『ジャン・クリストフ』全6巻（訳・国民文庫刊行会）
- 大正8年 A・ドーデ『巴里の三十年』（訳・新潮社）
- 大正11年 V・ユーゴー『死刑囚最後の日』（訳・冬夏社）
- 昭和3年 *Les premiers échanges de civilisation entre l' Extrême-Orient et l' Occident dans les temps modernes. Revue de la littérature comparée*
- 昭和5年 『仏文和訳研究』（郁文堂）
Episodes du Heiké Monogatari (Prunier と共訳・E. Leroux)
- 昭和7年 『仏蘭西の俳諧詩』（改造社・俳句講座VII, X）
L'orphelin de la Chine et son original chinois. Revue de la littérature comparée.
- 昭和8年 『パスカル篇』（訳と解説・第一書房・世界大思想家選集）
『支那思想のフランス西漸』（第一書房）
- 昭和9年 『フランス精神史の一側面』（第一書房）
『西洋人の観たる支那』（岩波書店・講座東洋思想 XIII）
ブリュッケ『儒教大観』（訳・第一書房）
- 昭和11年 *L'influence Française au Japon depuis la fin des Tokugawa jusqu' au commencement de l'époque de Meiji. la Maison franco-japonaise.*
- 昭和12年 『新和文仏訳法』（第三書房）
- 昭和13年 『東西の文化流通』（第一書房）
『生活と心境』（第一書房）
- 昭和16年 『支那四千年史』（第一書房）
ブーヴェ『康熙帝伝』（訳・生活社）
- 昭和17年 『乾隆帝伝』（生活社）
『芸術の支那・科学の支那』（第一書房）
『科学と文学』（千倉書房）
- 昭和18年 『ゴンクールと日本美術』（北光書房）
『日本・支那・西洋』（生活社）
- 昭和22年 パスカル『パンセと小品』（訳・全国書房）
- 昭和26年 『フランス文学——17・18世紀』（慶応通信教育教材）
- 昭和33年 『東洋文化の新しい希望』（至文堂・東洋思想講座 IV）

（松原秀一編）